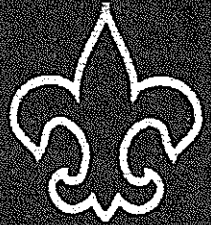


REINANZAKA SCOUT CLUB



スカウトOB・OGの情報交換や交流の場/2001年11月20日発行

霊南坂スカウトクラブ

霊南坂スカウトクラブ：霊南坂教会内 107-0052 東京都港区赤坂1-14-3 電話：03-3583-0403

サマーキャンプ2001

第1回スウェーデンナショナルジャンボリー SCOUT 2001に参加して

GSシニア部門正リーダー
本多 千春

私は今年の夏、ガールスカウト東京都支部委託海外派遣の引率リーダーとして、スウェーデンに行き参りました。その様子をご報告したいと思います。

旅程は2001年7月26日～8月12日の18日間。7名のレンジャースカウトを、もう1人のリーダーと引率しました。26日に成田を発ち、デンマークのコペンハーゲンに入りました。ここで2泊3日の観光を楽しみ、28日ジャンボリーの開催地であるリンカペイに移動しました。

リンカペイは、南スウェーデンに位置する小さな村です。バスでコペンハーゲンから完成したばかりのオーレスンド海峡大橋を渡り、スウェーデンに入りました。

ジャンボリーの期間は7月28日～8月5日の8泊9日、参加人数は約2万6千人、参加国は50ヶ国でした。キャンプサイトは、ジャンボリー後にホームステイさせていただき団と一緒にしました。

意外と日本人よりもシャイな人達で、キャンプが終わる頃にやっと仲良くなれたという感じでした。

驚いた事は、スウェーデンスカウト

のキャンプクラフト技術の高さです。キャンプサイト毎に3～5mほどの丸太が20本ずつ位配給され、角しばりやすじかいしばりを上手く応用して、丈夫なかまどや調理台、食卓台、シャワールーム、高床式住居、また観覧車、メリーゴーラウンドのようなものまでを作っていました。

日本のスカウトと決定的に違う事は、スウェーデンのスカウトは男女混合のパトロールで活動し、同じテントに寝ることです。役割など、全体的に男女の区別が感じられませんでした。また、スウェーデンのスカウト達は、全て自分の責任において任されており、夜の

門限もなく、皆思い思いに行動していました。

また、私達日本の派遣団は、4月にお忍びで日本に来られたスウェーデン国王にお会いする事ができました。そこで、スウェーデンジャンボリーでの再会をお約束しました。ご存知かもしれませんが、国王は世界スカウト財団の名誉総裁でもあられるのです。そして、日本のガールスカウトだけ特別に、ジャンボリー会場にいらしたスウェーデン国王にお会いし、お話することが出来たのです。

お土産にガールスカウトの制服を着ているジェニーちゃん人形を差し上げたら大変喜ばれました。とても気さくな方で、すっかり国王だという事を忘れてお話ししたり、記念撮影をしたりしてしまいました。

後日、ストックホルム観光で宮殿を訪れたとき、あの方はこんなに偉い方だったのかと改めて気付かされ、とて



も貴重な経験をさせていただいたと思
いました。

とても名誉だと思ったことは、1ヶ
国につき1人の代表者のみが出席でき
るレセプションに、私が日本の代表と
して参加させていただいたことです。
そこで、たくさんの外国リーダーと知
り合うことが出来ました。これからも
意見交換などをして交流を続けていき
たいと思います。

そして、ジャンボリー閉会后、ホーム
ステイ先であるストールブレタにスカ
ウト電車で9時間かけて移動しました。
そこは、ストックホルムから電車で40
分くらいの小さな町です。ホームステ
イ先の団は靈南坂のような教会団だっ

たのでとても落ち着きました。

ここでは、森の中の散策やバーベQ、
カヌーでの川下りなどスウェーデンら
しい体験をし、6日間過ごしました。そ
の後2泊3日のストックホルム観光を
し、8月12日無事帰国する事ができま
した。

今回は引率リーダーとしての参加だ
ったので、純粋に楽しむというよりは、
とにかくスカウト達が健康で安全に過
ごせて、充実した研修ができるように、
という事ばかり考えていました。スカ
ウトを海外へ引率する事は思っていた
以上に大変でした。自分がスカウトだ
った頃には、とても想像もつきません
でした。

4月から12回の事前研修を行い、
様々な準備をし、団の集会やキャンプ
も両立していかなければならない…海
外研修中は事故やトラブルがないよう
に配慮し、無事帰国させなければなら
ない…そのやる事の多さと責任の重さ
におかしくなりそうでしたが、研修を
終えた今、とても良い勉強になったと
思っています。

まだまだ派遣団としての事後研修は
続きますが、頑張っていきたいと思
います。そして何よりも、今回学んだ事
を4団でのスカウト活動に生かして、充
実した集会が持てるように努力してい
きたいと思います。

「スカウト」最後の夏を最高なものに

レンジャー・スカウト
清水 昌子

小学校入学と同時に、ガールスカウ
ト東京4団に入団して今年で12年目に
なります。来年はスカウトから「リーダ
ー」になります。しかし、来年リーダー
に私が実際になったとき、私がリーダ
ーに教わったものと一緒にスカウトに
教えてあげられることはないかと考え
ました。そのとき「海外派遣」があるこ
とを思い出しました。

私が高校1年生の時、当時高校3年
生だった福嶋薫リーダーが、メキシコ
にあるアワカパニャに日本代表として参
加しました。彼女から聞いた話が私の中
で、「高三になったらアワカパニャに
行く」と決めるきっかけになりました。

今年東京都支部では4年に一度の
スウェーデン派遣もありましたが、私
は本部派遣のアワカパニャ・フレンド
シップ・セッションを希望して申し込
みました。本部派遣でなおかつアワカ
パニャを希望した理由は、支部派遣で
は支部主催で募集が行われるのに対し、
本部派遣では全国からのスカウトの応
募があるので外国のスカウトと交流を
持つ前に日本のガールスカウトと交流
を持つことができ、改めて日本の文化・
伝統を知ることができます。それが私
の本部派遣で参加する最大の理由でし
た。

そして実際に日本代表としてアワカ
パニャへの参加者の一人になることが
できました。8月4日アワカパニャに
向けて成田から出発しました。メキシ
コでの2週間の内、1週間はアワカバ

ニャに滞在し、その前後2日間づつ計
4日間はメキシコの首都のメキシコ・
シティにあるガールスカウトの小さな
ホテル「ティカリ」に泊まりました。メ
キシコの伝統文化や食生活を知るため、
市内観光やメキシコの遺跡の一つであ
る「ティオティワカン遺跡」を見学して
日本の文化とはまったく異なるメキシ
コの文化や国内経済の不安定な状態が
日本と比べてより悪化していることに驚
きました。

日本では見ることはありませんが、
とても小さな子供が家族の家計を支え
るためにメキシコの町の中でガムやお
菓子などを売っているところを見て心
の痛みを感じました。この心の痛みは、
アワカパニャのプログラムの一つであ
った「サービス・プロジェクト」の時にも
同じ痛みを感じました。

「バドス」という団体に所属している子
約2~17歳の子供たちも、普段は学校
に行かず、家計の支えになるために仕
事をしています。

アワカパニャ内での生活は、外国の
スカウトと交流を持つのはもちろんの
こと、バドスを通じて仕事をしている
子供達と交流を持ったり、ゲームを通
じて平和について考えたり、難民キャ
ンプ生活を過ごしている人々の気持ち
を考える機会を持つことができました。

自分が平和な国に住むことが出来る
ことに感謝したいと思い直しました。
また、外国のスカウトとはゲームなど
を通じてお互いのコミュニケーション
をとることができたので、「リーダーと
いうものはゲームを通して何をスカウ
トたちが学ぶことができるか」を考え
ながらゲームをすることが大切である
と学びました。

今回の貴重な体験を通して、今私を



アメリカのスカウトと共に／アワカパニャ

とりまく環境や世界の見方が広がった
と思います。「スカウト」としての最後
の夏休みに、良い思い出を作ることが

できたので、これからのスカウト活動
に役立ててさらに、充実したものにで
きるようにしてゆきたいと思います。

た。天の川を見れてよかったです。

日本の東京に着く前の日、班と班の
パディで出す出し物を決めていました。
出し物は「コンパクト」同じパディの班
の人たちははく物館のぼしゅうで来た
人たちなので、いっしょうけんめいお
しえてあげました。そして夜、見事に成
功しました。賞はとれなかったけどまん
ぞくです。

お台場が見えて来て、ぞくぞくと人
がデッキにきました。よく考えたら、み
んな東京の人たちではないんだと思い
ました。ふと海の色を見るとへんなみ
どり!?かんきょうもんだいかーと思
いました。

私は参加できてよかったです。それ
は「いいけいけん」という肩書きではな
く、友達ができた事です。私は足元の
大きな石に気づかなかったガリバーのよ
うに、人の気持ちを考えずにいたかも
しれないけど、「自己しようかいと話を
すれば友」というブラウニーの時に
おしえてもらった言葉。年の差なんてか
んけいがない。友達ができてよかったです。

ジュニア・サイエンスクルーズ

ジュニア・スカウト
小内 一子

親のもとを1週間以上はなれる。キ
ャンプより移動教室よりも多い日。

出国前、私はお母さんと2日間大阪
ですごしました。お父さんは仕事で
いません。おとうさんとは1週間と半分
あわないのかぁと思いつつ、大阪です
ごし、関西国際空港へ。セキュリティ
ーチェックを受ける所まで、お母さん
は見えました。もう…かぁと上を見上
げるように思いました。

不安で、寒かったので、飛行機の中
では一睡もできないようにおもっていた
のです。

「外国だ!」と思ひもしなかった私。ね
ぼけていました。目がさめたのはバス
のクーラーの冷たさと外の雨。後で聞
いた話では、私たちが来る前まで10
日間も雨がふっていて、ちょうどこの
前の日まで、台風が上陸していたそう
です。その台風は日本にも接近中。

ついたらまず日本との時差にあわせ
るためにねました。またもや不安がい
っぱいでした。

グアムと日本とのちがいは、いろい
ろあります。1つ目は海。一番最初のほ
うもん場所は、海中てんぼうとうで
した。とても色がさわやかな海の色。魚も
きれいな魚が多かったです。シンクロ
を魚がやっているようでした。そして
自ぜんです。あったかい気こうのせい
もあってハイビスカスやバナナの木、
ヤシの木など十数年に1度しかさかな
いリュウゼツランもありました。おど
ろいたのは、バナナの花。人のひふ以上
に厚いような気がするほど厚かったです。

グアムでの食事は、毎日バイキング。
好きな物だけとりそうだけど、私は体
調をくずしやすい、まるで砂のような
感じなので魚や野菜を食べました。

ふじ丸に乗ってエメラルド・グル
ープの人たちがホテルに来た時、だる
そうでした。これから乗る私たちはよ
うのか?

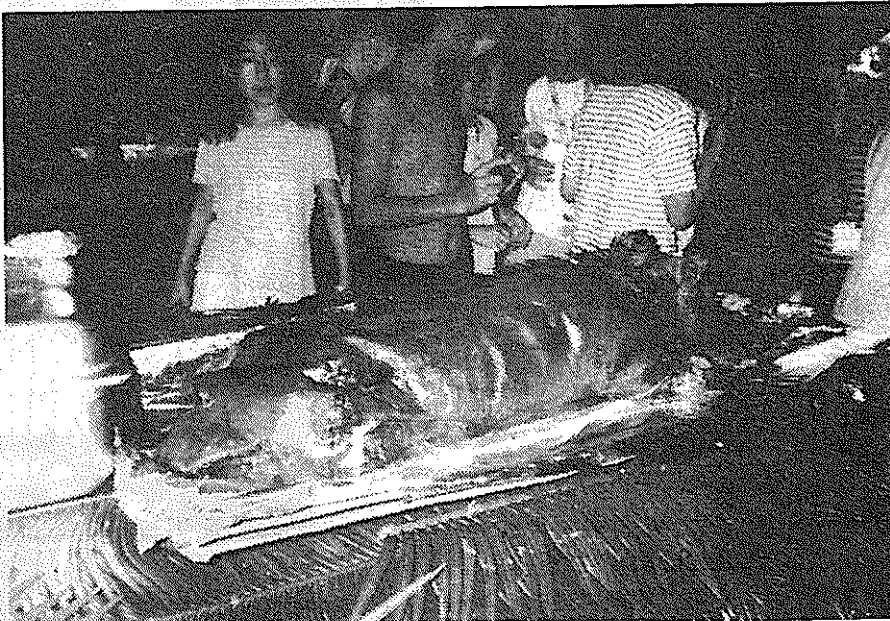
グアムの子供たちと遊んだ日、その
日は何かとくべつだったような気がし
ます。なぜなら…よくわかりません。だ

けど、名しのこうかんもできてよか
ったです。

ふじ丸にじょうせんして分かったの
ですが、大きければ大きいほどふねは
ゆれない…とおもったら、すごくゆれ
ていました。ふねでの生活は「サイエ
ンス・クルーズ」なわけですから、自分
でせんたくするプログラムで航海術や
科学・ロボットであそぶなど。ほかに
数学ゲームもありました。そして、い
ろろと参加しているうちに友達もでき
ました。

千葉のガールスカウトのみなさんや
東京のボーイスカウトの人たち、海洋
少年団の人たち、もう最高でした。

ふねからの風景は、ジョン万次ろう
で有名な鳥島や今19年ぶりに水じょう
きばくはつをしたいおう島が見まし
た。それから夜、星がとともきれいでし



すばらしいごちそう「ブタの丸焼」

霊南坂 S C シール

霊南坂スカウトクラブでシール
を作りました。ゴールドの地に
濃紺で霊南坂教会(昔の建物を
イメージ)を描いた大浜良友さ
んのデザインを基調としたもの
です。

1袋(50シール)

500円

「21世紀を担う子どもたちに大きな夢
を」と『子どもゆめ基金』が創設され子
供の健全育成推進のための普及啓発事
業のひとつとして「科学少年少女派遣
事業…ジュニア・サイエンスクルーズ」
にガールスカウト40人の1人としてジ
ュニア部門の小内一子さんが参加しま
した。

関西→グアム→東京、総勢240人の
子供達が9日間の船の旅をしました。
団長は霊南坂スカウトクラブ・メンバ
ーの杉原正氏でした。

流山第4団のご紹介

片岡 孝

去る10月21日に流山第4団の総会が開催され、平成12年度の事業報告並びに平成13年度の事業計画が、各リーダー、団委員長、育成会役員、ご父兄等による審議の上、無事承認され、13年度の活動をスタートさせました。

現在、私が所属している団のご紹介をしたいと思います。

長男（現在24歳）がスカウト年齢になった時、近所の人の紹介で流山第4団に入団し、カブスカウト活動を始めました。残念ながらスカウト経験のあるリーダーが一人しかいなく、私も父兄の一員として活動に参加するうちに自然にスカウト技術が顔を出し、スカウト経験を生かす機会が増え、スカウト活動を再開することになりました。

流山第4団は、昭和49年4月1日に発団し27年が経ちます。集会場である「流山第4団スカウトの森」は、J R柏駅から約10分の東武野田線初石駅から徒歩10分の所にあり、約1500坪の雑木林をリーダー、ご父兄等で切り開き使用しています。

現在のスカウトの森に来て既に10年経ちますが、それまでに5回スカウトの森を移動しています。自然のままの雑木林は、スカウト活動にご理解のある地元の名士の方々から無償でお借りしており、流山第4団関係者全員が感謝しています。

スカウトハウス用に1棟、備品倉庫用に1棟、材木置場用に1棟と、全3棟のプレハブハウスがあります。これも建設会社に勤務されているご父兄から、中古ハウスを格安で分けてもらったものです。

今まで足立区の野営研修会や台東第1団の訓練キャンプ等多くの友好団に活用させていただいており、スカウト活動にご活用いただけるのであれば、いつでも下名までご一報下さい。

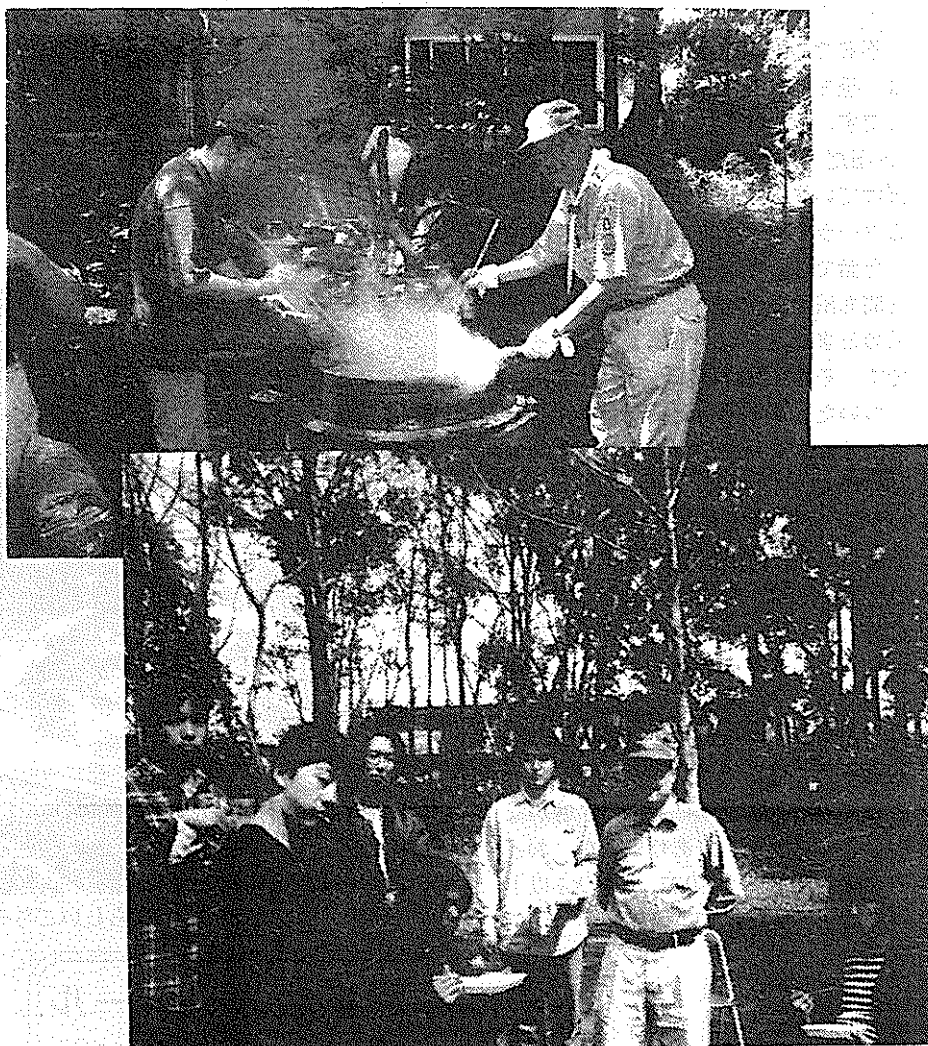
8年前から、シニアスカウト（現ペンチャースカウト）隊長を勤めていますが、各隊のスカウト数減少が悩みの種です。（BVS：5名、CS：11名、BS：11名、VS：6名、RS：8名）数年前までは、スカウト数も多く活発な活動を展開しており、現RSが同時に3名富士章を取得したり、北総築1号のベ

ンチャー富士スカウトが出たりと頑張っていたのですが…

近所にマンション等住宅地も増えつつあり、初心に戻ってスカウト倍増活動を推進していこうと思っています。

毎年5月のゴールデンウィーク明けの翌日曜日（来年は千葉県カブラリーと重なった為、翌々日曜日となります）に、当団のスカウト祭りを定例開催しております。流山の友好団（BS、GS）や、春日部第7団のスカウト達

にも参加してもらっており、港第1団にも以前参加いただいたこともあります。リーダー、団委員、ご父兄等の手作りアスレチックが6基設置され、スカウトや近所の子供達にチャレンジしてもらったり、バザーや売店もあります。また豚汁300人分が作れる大釜で子供達が持ち寄った材料を使い、無料で食べてもらったりと楽しい一日を過ごしています。是非また、港第1団のスカウトたちも参加して下さい。



【片岡孝氏の略歴】

◎小学校3年生で東京第4団（現在の港第1団）のカブ隊に入隊。

◎高校3年～大学3年までカブ隊の副隊長を勤める（隊長は里見一現・友常さん）

◎大学3年で「インターナショナル・キャンプ」のスタッフとなり、アメリカへ。2ヶ月間参加（日本から36人参加

したが、キャンプ場は各人異なった場所）その時共に参加したプエルトリコからのスカウトに翌年朝霧高原で行われた世界ジャンボリーで再会、感激したものだとのこと。

◎大学4年でカブ隊の隊長を勤めるが就職先が名古屋だったため辞任。現在53歳

青少年の自発的社会参加を考える

杉原 正

誰もが予想もしなかった同時多発テロが米国において起り、世界の人々を震撼させました。不特定多数の人々を死に至らしめるテロ行為は決して許されるべきものではありません。そして報復戦争ともいわれる米国を中心としたアフガニスタンのタリバンに向けての空爆が始まり、このことが新たな報復へと連鎖することへの危惧を多くの人々がもっており、このことによって本当の平和に繋がると考える人は少なく、真の解決策とはいえず、日本人にとっても何をもって平和に貢献できるかが問われています。

アフガニスタンのことについては、永年にわたってガールスカウトがアフガニスタン難民の子ども達に向けて“ピースバック”に取り組み、タリバン支配下のもとでの子どもの支援に努力をされたことを想うとこの戦況下にある弱い立場の人や子どもの姿を見るにつけ心が本当に痛みます。

タリバンへの空爆の報を私はドイツで知りました。30年間にわたって続いた文部科学省とドイツ連邦共和国の家庭・高齢者・女性・青少年省の省間協議に基づいて今回ベルリンを中心としての各都市で開催された3週間余りにわたる日独青少年指導者セミナーの期間中でありました。

空爆に関してドイツでは当初テレビや新聞などで大いに報道されていましたが、日が経つにつれて、その内容や記事は冷静で沈着なもので日本での取り上げ方とは差があることを帰国して感じました。

また一方では、このセミナーでは、ドイツ連邦の青少年関係者や青少年の育成組織に関わる人々から異口同音で、“今こそ次代を担う青少年に向けて国際理解や地球市

民として育つための努力を一層強めなければならない”との言葉が各都市を訪問して聞くことが多くありました。

自分が考え、判断し、行動し、責任を持つことを育てるという意向はドイツには強くあります。10年程前、武蔵野第1団(吉祥寺カトリック教会)のスカウト達がドイツのスカウトとの交流を始めました。その交流から学んだことをスカウティング誌に引率したリーダーが掲載しました。

細かいことを指示して一見規律があるように見えるスカウトに対するリーダーの接し方と、おおらかにスカウトの自発性を待つドイツのリーダーのスカウトの接し方の違いについてドイツのリーダーに質問したところ、「人に云われて良いことをする人間は、人に云われて悪いこともする。ドイツではそのような人間は作らない」と毅然とした態度で語ったこと。そして、「過去の全体主義やナチへの反省を次代の者がきちんと受け継いでいることに感銘を受けた」とのことでありました。

今回のセミナーでは、日本からは青少年の教育や育成に関わる行政や教育機関、教育施設や警視庁など、そして青少年団体を含めて30名が参加し、4つのグループに分かれ、それぞれテーマをもって協議や研究を行いました。その一つのテーマに「青少年とボランティア活動」があり、とくに青少年団体関係者を中心に取り組みました。

「ボランティア活動」という言葉が、その拡がりや、どのように考えるかで、なかなか一致できなく、結局はドイツが説明する「青少年の自発的社会参加や社会参画」ということで共通理解をしました。

大人が細かいことや、すべてのことに口を出したり指示をしない。子ども達に考えさせるように仕向ける。その工夫をしていくことが大人の役割であるとし、あくまでも子どもの気付きを大事にしていくことを改めて痛感しました。義務教育の9年間の終了後の将来に向けて職業選択を含めての進路については、16才の若者や大学生たちとの話し合いを通じて、しっかりと自分の考えをもって、また兵役義務やその代替義務としての社会貢献についても真剣に取り組む姿に接し、日本との大きな差異を感じました。

グローバル化する社会にあって日本人は世界の中の日本人として、また地球市民として共存することができるのか、いま大人全体に問われている責任が重いことを感じ、「青少年の自発的社会参加や社会参画」が、平和や人権、そして環境との拡がりの中で展開されなければならないと思うにつけ、スカウト教育の意味を改めて問い直し、その原点にかえて取り組みなければならないと強く思っています。OB・OGの方のご理解とご支援を期待しています。



スカウト運動に希望

佐藤 禮子 (旧姓 長瀬)

少女時代にキャンプ場でかいだ夏草の匂いに出会うと胸がキュンとなりんす。

この50年よりも日本人は経済的豊かさを求めて邁進し、開発の名のもと自らの周辺環境を痛めつけてたものです。

21世紀を迎え、その勢いがやや衰え「豊かさ・幸せとは何か」を問い直していると思います。経済のグローバル化の象徴だったアメリカの世界貿易センタービルのあつと云う間の崩壊はそれに拍車をかけるかもしれません。

わたくしはこの7、8年、地域の清掃工場建設反対運動に関わってから、深く深く近代科学に基づく人類の進歩に疑問と不信を抱くようになってしまいました。

生ゴミや有限資源を燃やし、有毒物質を出し続け、それを押さえるために莫大な税金を使う焼却万能の愚かな今の日本の清掃行政に始まり、始末の出来ないプラスチックの存在も憂えています。

ヒトは何億年もの歴史を持つ石油というパンドラの箱をこじ開けて、限りない欲望のために化学という名の知を駆使し、傲慢な振舞いをし続けています。そしてさらに核廃棄物をはじめ、後始末の出来ない、生態系を脅かす危険な化学物質を日々開発し商品化しているのです。

内分泌を攪乱する化学物質、いわゆる環境ホルモンの海の中で全ての生命は溺れそうなのです。

少女時代にナイロンが開発され、ビニール風呂敷はキャンプに無くてはならない物でした。そのプラスチックの大量生産が50年後にこんな悪さをすると誰も考えなかったのでしょうか。

「自然界は人類のなすがまま、決して黙っていない、ブーメランのど

とく復讐してくる」とわたくしも信じます。罰(ばち)が当たると思うのです。

既にその兆候が出ています。精子数の減少、ガン(癌)、アレルギー、化学物質過敏症、多動性障害、狂牛病、あれもこれも…

明治以来、教育が徹底したお陰(?)でわたくし達は「科学者」「専門家」「お上」たちを信じ、「効率」をあげ「競争」し、「生産」に励み、それ以上のことは誰かが何とかしてくれると思っていたんじゃないか。

しかし、気づかずに日々取り込んだ様々な汚染化学物質は何よりも大切な子どもたち、特に胎児に胎盤を通して譲り渡し、譲った母親はその行為で「清まる」という反倫理的、生物的行为をメスはし続けているのです。

この事実を知った時、四人の子を産み育て、孫の誕生を喜ぶ一人の平凡な人間としての悲しみとショックはそれはそれは大きかった

のです。そして、残りの人生を化学物質の汚染をこれ以上次世代に渡さない、生命系にばらまかない運動にのめりこまずに自分の人生に誇りが持てなくなってしまったのです。

でも、その気づきが出来、行動を移せるヒトになるには、子ども時代に自然への畏敬「センス オブワンダー」を身体で感じる体験だと『沈黙の春』で化学物質の危険性を警鐘したレイチェル・カーソン女史が、既にわたくしがスカウトとしてキャンプを楽しんでいた頃に云っていたのです。

自らの人生にスカウト運動との出会いがあったことへの感謝と共に、声を大にして現代のスカウト運動の存在意義の再認識を訴えたいのです。スカウト運動の現代の存在価値は「自然と共生」を身体で感じ、謙虚に生きる人間教育だと痛感しています。「スカウト運動に希望」を託し祈ります。



1956年9月20日撮影の懐かしい写真、後列の向かって左端に佐藤禮子さん。

今田富江さんが後列右から2番目にいます。

【佐藤禮子さんの略歴】

◎東京GS4団に14歳で入団(S27)

◎1級スカウトになる。(S33)この年、松下さん(旧姓三木)と共に8団を結成し、現在に至る。

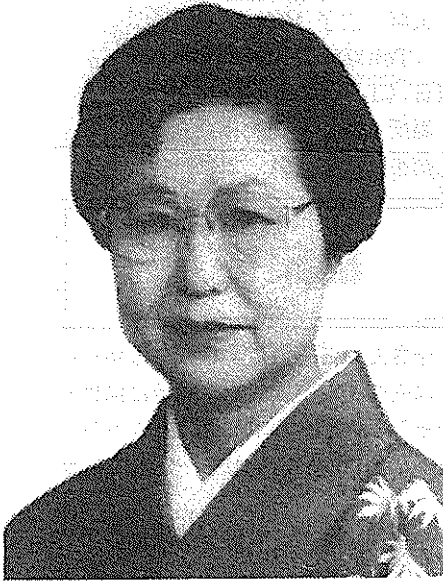
この間、日本連盟の数々のプロジェクト・チームに加わり貢献される。

2002年4月29日

霊南坂スカウト
創立55周年式典
詳しくは次号

今田富江さんが去る6月2日天に召されました。昨年5月「何だか身体がだるいので、チョット病院へ行って来ます」と診察に行かれ、そのまま入院。人生の後半、万華鏡に力を注がれ、亡くなる前1週間、アメリカの大会に参加され帰国後4日目に召されました。

ガールスカウトにおける略歴は、1951年(12歳)でスカウトとなり、



Foreground (left to right): Misses Tomiye Tanaka, Sachiko Watanabe and Machiko Inoki. Background (left to right): Misses Yasuko Inada and Naoko Yamada.

5 Japanese Girl Scouts Leaving for N. America

Four Japanese Girl Scouts, Sohei Nezu College, Tokyo, are leaving on June 21 to visit Miss Yasuko Inada 18, a graduate of the Kobe Jogakuin High School, Kobe, who is now working at the Nippon Life Insurance Co. Miss Tomiye Tanaka is leaving on July 18, a graduate of the Mita Girls' School, Tokyo.

1957年ジュリエット・ロウ・セッションに参加(全国で4名が選出)、1958年1級スカウト(1級スカウトで一番在籍の長いスカウトだった)。1958~1971年GS、上級、レンジャーのリーダーとして活躍されました。

夫君の今田富士雄氏とスカウト同志の結婚第1号であり、おしどり夫婦として過ごされました。

心から御冥福を祈ります。

い争い」から来た言葉ではない。

■焼きを入れる：刀の表面は硬い鉄で出来ていて、火に入れて焼刃を付けなければ一層硬い斬れる鋼にはなりません。すべてそこから来た言葉です。

■焼きを入れる：しっかりしろ、と活を入れるときなどに使う。

■焼きが鈍った：昔若い時バリバリ働いた切れ者の人が、意気が上がらなくなり、頭の回転が鈍くなって来た時などに使う。

■付け焼刃：火を通さないのに、刃先のところを白くこすっていかにも刃紋の顔に見せた事を言う。

■地がねが出る：刀は表面に硬い美しい鉄が、中の柔らかい鉄をくるむ構造になっています。研ぎべり等で、表面の鉄が薄くなりまたなくなり、中の心鉄が表面に出てしまうことを言う。転じて、今まで表面だけつくろっていたものがはげて、醜い本来の物が出てくることを言う。

■折り紙付き：正真の物には折り紙型式の鑑定書を発行していたが、信頼度が高く折り紙と言うだけで正真鑑定証の事になった。今は、人物が間違い無い事を請合うとき「折り紙を付ける」などと言う。

■土壇場：江戸時代、斬罪の刑場においては、土を盛って土壇と言う物を築き、その上に罪人をのせて斬った。もう逃げられない最後の時を言う。

■懐剣：刀とは別に懐中深く持って、いざという時に使用する短剣を言う。転じて、秘密の大事を預かる側近の事を言う。

■目貫通り：繁華街の一番にぎやかな通りを言いますが、目貫とは、刀の外装の柄の所、そこが一番目立つところに付けられる金具で、大変重要な物です。(一般的には目抜き通りと書きますが、目貫の説もあるそうです。)

その他にも、抜き差しならぬ・抜いたら最後・身から出た錆・抜き打ち・切れ味が良い・真剣に取り組む・真剣勝負・単刀直入・一刀両断・一刀のもとに・両刀使い・太刀打ちできない・助太刀・両刃の剣・横槍を入れる...等があります。兎に角、刀から出た言葉には独特の雰囲気があります。皆さんも普段何気なく使っている言葉にも色々な語原がある事を知っておいてください。

ちなみに、「後の祭」とは、京都の祇園祭の事で、日本刀とは関係有りません。あしからず。

「古美術商って何?!」

永山 茂樹

突然ですが「後の祭」ってなんの祭りか知ってますか? 私達の生活の中には、意味も分からず何気なく使っている言葉があります。中でも日本刀にまつわる物は数多く、それだけに、昔から日本人にとって切っても切れない間柄と言えらると思います。古美術商にも関係がありますので、ここに代表的な物を幾つか上げてみます。

■切羽つまる：切羽とは鍔がガタガタ動かないように両側からしめつけている板金の事。切羽がピッタリしまつて鍔が動かなくなるように、ニッチもサッチも動きが取れなくなるまで、追い詰められる事。

■反りが合わぬ：刀はすべて反りが違っていて、どの鞘にも収まる物ではありません。

刀が鞘に入らない時「反りが合わぬ」と言うわけで、転じて仲がしっくりしな

い事を言う。

■もとの鞘におさまる：いくら入れても他の鞘に入らない刀が、元の鞘だけにはピッタリ入る様子から、仲たがいがいした夫婦などが元に戻るときなどに使います。

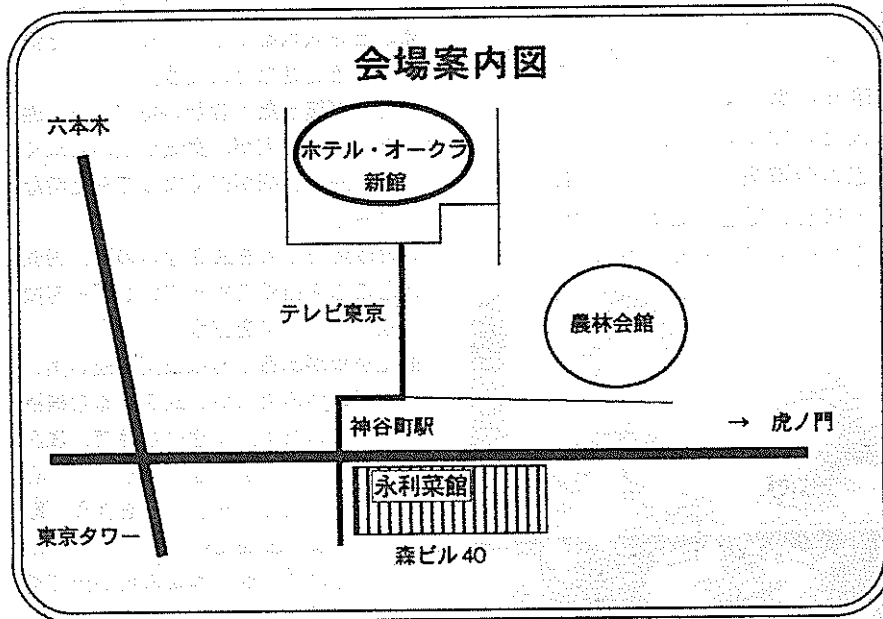
■伝家の宝刀：その家に代々伝わっている宝刀。素晴らしい威力があるが、よくよくの場合以外には秘め置いて使わぬ物を言う。

■鑢を削る戦い：鑢(しのぎ)とは、刀の刃と棟との間にある小高い稜線の事です。戦いで両者の刀がガッチリ重なり、その鑢が削れるほどの激戦を言う。

■鏝ぜり合い：戦いの時、互いに打ち込んだ刀を鏝で受け止めあったまま押し合う事。勝負を争う場合の緊迫した状況を指し、ひいては激しい勝負その物を指す。けして「唾が出るほど激し

クリスマス・忘年会の開催

12月15日(土)午後7時から



毎年、12月初旬から中旬にかけて、スカウトクラブ会員同士の親睦とBS・GSリーダー達の慰労を兼ねてクリスマス・忘年会を行っています。

今年も、12月15日(土)の午後7時から営団地下鉄神谷町駅に近い中華料理「永利菜館」で行います。当日の会場は貸し切りになりますので、心置きなく歓談が可能です。

参加会費は3,000円ですが、現役リーダーは慰労も含まれたものなので1,000円となっています。このクリスマス・忘年会にはスカウトの保護者の方々にも参加を例年通り呼びかけています。

食事を楽しんでいただくと同時に自

由に歓談を行うほか、恒例となっているビンゴ・ゲームなども用意していますので、是非多くの方々の参加をお待ちしています。年末は種々行事があり、仕事の都合などで予めの参加希望のご連絡ができない方もいると思われませんが、料理の準備もありますので、できる限り下記に出席のご連絡をお願いします。

また、可能なかぎり多くの方々に参加していただきたいと幹事一同考えていますので、当日に時間が空いた場合には、出席連絡をされていない方も会場へ直接ご来場ください。

クラブ会員の方へのお願いです。皆さんとビンゴ・ゲームなどを楽しく

行いたいので、以下のような賞品の寄付が出来る方はお願いします。家にあっても使わないようなもの、商売で半端になってしまったもの、趣味でつくったもの、お店や商売の宣伝(飲食店であれば、ディナー券等)などの寄付をお願いします。出来れば簡単なラップ(包装)をして、当日お持ちください。

スカウトの保護者の方でも上述のような賞品となるようなものがありましたらご寄付ください。

一人でも多くのご参加をお待ちしています。

☆☆☆ご出席の連絡先:

矢澤 宏子 宛

Tel: 03-3555-6375

当日(12月15日)の連絡先

場所・終了時刻の確認など

携帯: 090-4919-2941 (河内)

編集後記

皆さんのご協力により今号は盛り沢山な内容となりました。次号には世界ジャンボリーへのボーイスカウト参加者が3名について掲載を予定しています。

来年は霊南坂スカウトが発足してから55周年となります。詳しく次号に掲載します。

E-mail / 電子メール

スカウトクラブの会報は年に3回、あるいは多くて4回となっています。

3~4ヶ月の間に事柄によってですが、できるだけいろいろなことを皆さんに早くお知らせしたいと幹事会では希望しております。

そこで、現在E-mail Addressをお持ちの方は下記まで電子メールでアドレスをお知らせください。会員・未加入会員を問いませんのでお気軽にご連絡ください。(河内宛)

連絡先: E-mail Address

riverys@fancy.ocn.ne.jp

意見・寄稿を募集中

広く皆さんのご意見や寄稿を募集しています。ビジネスに役立つ情報交換を希望される方からのものも掲載していきますので共有できる情報を左記の幹事宛に送付ください。

霊南坂スカウトクラブ連絡先

入会申込・問合せ等:

(郵便) 107-0062 東京都港区南青山7-11-5 日下部 宛

(ファックス) 03-3400-0399 (電話) 03-3400-0331

会費・ご寄付等:

(郵便) 105-0001 東京都港区虎ノ門1-19-5 杉原 宛

(電話/ファックス) 03-3501-3998

振込講座番号: 霊南坂スカウトクラブ

(郵便局経由) 00160-1-615237

通信・ご希望・ご意見等:

(郵便) 150-0021 東京都渋谷区恵比寿西1-33-3-303 河内 宛

(ファックス) 03-3464-8276 (電話) 090-4919-2941

(E-mail) riverys@fancy.ocn.ne.jp